

大学名	京都ノートルダム女子大学
プログラム名	情報活用カプログラム(基礎)
プログラム掲載URL	https://www.notredame.ac.jp/nd/ndec/program/
現在(直近)の認定期間	R3.8.4~R8.3.31

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件	学部・学科によって、修了要件は相違しない
② 対象となる学部・学科名称	国際言語文化学部、現代人間学部、社会情報学環、女性キャリアデザイン学環
③ プログラム履修必須の有無	時期含め未定
④ 修了要件	情報活用カプログラム「基礎・基幹」科目群のうち、必修3科目6単位、選択必修3科目(▲)から1単位以上、選択必修科目(無印)から8単位以上の要件を満たし、全体合計で16単位以上となるよう修得すること。

⑤ プログラム構成科目

必要最低科目数・単位数	8 科目
	16 単位

授業科目	単位数	モデルカリキュラム対応状況																			
		1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7	2-8	2-9	2-10	2-11	
(1) 必須科目(プログラムを修了するために必ず履修しなければならない科目)	情報技術リテラシー	2	○																		
※卒業要件上の必修科目とは必ずしもイコールではない	情報の科学と倫理	2	○																		
	AIとデータサイエンス入門	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(2) 選択必修科目(プログラムを修了するために一定の条件のもと履修しなければならない科目)	▲情報演習 I a	1																			○
	▲情報演習 I b	1																			○
	▲情報演習 II	1																			○
	SNSコミュニケーションスキル	2	○																		○
	情報処理	2																			○
	プログラミング演習	2																			○
	英語英文学基礎演習 I	2																			○
	英語英文学基礎演習 II	2																			○
	基礎演習 I (国際日本文化学科)	2																			○
	基礎演習 II (国際日本文化学科)	2																			○
	生活環境基礎演習 I	2																			○
	生活環境基礎演習 II	2																			○
	心理学基礎演習 I	2																			○
	心理学基礎演習 II	2	○																		○
	こども教育基礎演習	2								○											
こども教育フィールド研修	1																				○
社会情報基礎演習 I	2																				○
社会情報基礎演習 II	2																				○
基礎演習 I (女性キャリアデザイン学科)	2																				○
基礎演習 II (女性キャリアデザイン学科)	2																				○
(3) 選択科目(プログラムを構成する科目のうち「必須科目」「選択必修科目」のいずれにも該当しない科目)																					

⑥ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	授業に含まれているスキルセットのキーワード	
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 1-6	・高度情報化社会の展望と問題点「情報の科学と倫理」(12回目) ・ビッグデータ、IoT、Society 5.0、データ駆動型社会「AIとデータサイエンス入門」(1回目・2回目) ・未来型SNS「SNSコミュニケーションスキル」(14回目) ・データを起点としたもの「見方」心理学基礎演習Ⅱ(7回～13回) ・AI最新技術の活用例「AIとデータサイエンス入門」(13回目)
	(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲にわたって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 1-3
(3) 様々なデータ活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 1-5	・データ解析「AIとデータサイエンス入門」(4回目・11回目) ・データ可視化「AIとデータサイエンス入門」(12回目) ・データサイエンスのサイクル「AIとデータサイエンス入門」(1回目)
	(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解を促す	3-1 3-2
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1 2-2	・データの種類の「AIとデータサイエンス入門」(3回目) ・データの分布、データのばらつき、相関と因果「AIとデータサイエンス入門」(11回目) ・情報処理演習「こども教育基礎演習」(7回目) ・データ表現、データの比較「AIとデータサイエンス入門」(11回目・12回目)
	2-3	データの取得、データの集計、データの並び替え、ランキング「AIとデータサイエンス入門」(11回目・12回目)
	4-1 4-2 4-3 4-4	・確率、順列、組み合わせ、集合、ベン図「情報技術リテラシー」(4回目) ・アルゴリズムの表現、並び替え、探索「AIとデータサイエンス入門」(6回目) ・並び替え(ソート)「プログラミング演習」(8回目) ・探索(サーチ)「プログラミング演習」(9回目) ・アルゴリズムとその考え方「情報の科学と倫理」(8回目) ・数と表現、文字コード「AIとデータサイエンス入門」(3回目) ・変数、代入、繰り返し、結合に応じた処理「AIとデータサイエンス入門」(6回目) ・プログラミング「プログラミング演習」(1回目～15回目)
以下のオプションを含むもの	4-5 4-6 4-7 4-8 4-9	・形態素解析、単語分割、n-gram 言語モデル「AIとデータサイエンス入門」(8回目・9回目) ・画像データの処理「AIとデータサイエンス入門」(4回目) ・データベース(リレーショナルデータベース、SQL)「情報技術リテラシー」(10回目・11回目) ・JavaScriptを使用したプログラミング実習「情報処理」(15回目) ・教師あり学習による予測「AIとデータサイエンス入門」(13回目) ・教師なし学習によるグループング「AIとデータサイエンス入門」(13回目) ・データ収集と分析、共有、課題解決提案「社会情報基礎演習Ⅱ」(3回～15回)、「心理学基礎演習Ⅰ」(8回～14回)、「心理学基礎演習Ⅱ」(7回～14回)
その他	・コンピュータシステムの基本的な操作等「情報演習 I a」「情報演習 I b」「情報演習Ⅱ」(「情報処理」(全)) ・インターネットやSNSの仕組みや内容を概観し、特性を理解しながら望ましいネットコミュニケーションのあり方を考える実践「SNSコミュニケーション」(全) ・基礎的なプログラミング技術を学ぶ「プログラミング演習」(全) ・データ収集、分析等を各専門分野で活かせるよう基礎を学ぶ「英語英文学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「基礎演習Ⅰ・Ⅱ(国際日本文化学科)」「生活環境基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「心理学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「こども教育基礎演習」「こども教育フィールド研修」「社会情報基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「基礎演習Ⅰ・Ⅱ(女性キャリアデザイン学科)」	

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 年度(和暦)

②履修者・修了者の実績(「学生数」「入学定員」「収容定員」は令和7年5月1日時点で記載)

学部・学科名称	学生数		入学定員	収容定員	令和7年度		令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		履修者数 合計	修了者数 合計
	うち女性				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
国際言語文化学部	187	187	60	240	0		1	0	2	21	15	18	7	30			25	69
現代人間学部	548	548	210	840	2		15	1	29	11	34	45	52	24			132	81
社会情報学環	42	42	30	120	7		15	0	15								37	0
女性キャリアデザイン学環	17	17	30	120	0												0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
合計	794	794	330	1,320	9	0	31	1	46	32	49	63	59	54	0	0	194	150

認定期間中における成果と課題、今後の計画について

教育プログラムの改善、教育の質向上に資する取組・成果という観点から、可能な限り定量的なデータに基づく分析やこれまでの自己点検・評価結果を踏まえて、記載してください。

項目	具体的な取組の成果、課題
①プログラムの学修成果 (学生等が身に付けられる能力等)	「情報活用カプログラム」は、情報社会において必要な情報科学の知識・技能を身につけるとともに、それが社会に与える影響を理解した上で、新たな情報を作り出し、課題を発見し、その解決に向けて主体的に解決策を検討し、実践できる人材の養成を目的とする。 「情報活用カプログラム(基礎)」(以下、本プログラム)は、上記の目的から、とくに必要とされる基礎的な学びを身につける。 本プログラム必修科目の授業アンケート結果(令和6年度)をみると、「この授業について主体的(熱心かつ意欲的)に取り組みましたか」99.2%、「この授業の内容を理解し、学びが深まりましたか」95.8%となっており、学生の理解が深まっていることがわかる。
②履修者数向上に向けた取組	オリエンテーションで本プログラム受講の必要性・有用性の説明のほか、『学生便覧』、LMSの専用コースに紹介動画を投稿するなどして、本プログラムに関する情報を得やすいようにしている。ND教育センター会議においては、とくに履修登録前に、各学科等の構成員を通じて学生に呼びかけるよう依頼を行うなどにより周知している。 また、ND教育センター公式サイトおよび大学公式サイトに詳細を掲載し、さらに入学予定者に対しても入学前に本プログラムのチラシを配付するなど、周知を行ってきた。 AI・データサイエンスへの学生の興味は近年高まってきており、今後も授業内容やカリキュラムは不断に改善を図り、現代的ニーズにあったプログラムとなるよう進めている。
③修了者数向上に向けた取組	本プログラム必修科目を中心とした授業の資料等をLMSに掲載し、掲示板機能などで質問等ができる体制を取っており、対面では専任教員を中心にオフィスアワーを設け個別相談に対応するなど、支援体制を充実させている。さらに、本プログラム必修科目や情報技術を中心とする科目については、チューター・アシスタントによるサポートも行っている。そのほか、本プログラムに関する履修相談についてはND教育センター事務室で、情報技術に関するサポートについてはシステム管理課において受け付けている。 また、主要科目担当教員(専任・非常勤)によるワーキングを実施し、履修生の情報共有や学修支援について検討している。
④関連する資格の取得推進に向けた取組	「情報活用カプログラム」全体の構成として、上級情報処理士(令和6年度:36名修了)に必要な科目も含んでいるため、同時取得を推奨している。 また、ITパスポートも推奨しており、推進機構の方を招いての学内説明会や情報関連教員によるフォローのほか、学内勉強会を実施(令和7年度:25名登録、4回実施)している。
⑤修了者の進路、企業からの評価	本プログラム修了生については、本学キャリアセンターと連携し、就職状況を把握している。これまでの修了生(150名)をみると、プログラマー、システムエンジニアをはじめ、マーケティング部門、そのほか情報スキルを必要とする企業や学校教員への就職が多くみられ、本プログラムの成果がうかがえる。 本学は、Wolfram Research, Inc.(ウルフラムリサーチ)と産学連携協定を締結しており、本プログラムの科目にも同社の知見を取り入れながら授業を行い、デジタル人材の育成を進めている。
⑥プログラムの改善状況	所掌部署での会議や主要科目担当教員(専任・非常勤)によるワーキングをとおして、履修生の情報共有や学修支援について検討し、今後も授業内容やカリキュラムの改善を図りつつ、現代的ニーズにあったプログラムとなるよう進めている。また、毎年度自己点検・評価を実施し、ND教育センター会議及びND教育センター運営委員会において協議している。
⑦再認定後のプログラムの目標・計画	学生数減のほか、全体の情報活用カプログラム(応用基礎レベル)の履修者数(令和6年度:63名)増にともない、結果的に情報活用カプログラム(基礎)の履修生は減少傾向にあるが、以下のとおり目標を設定し進める。 ●履修者数の数値目標 令和8年度～令和10年度:毎年度、各学年で履修者数10名・修了者数5名 ●認知度の向上と履修者数・修了者数の向上 上記のような各種取り組みを行っている一方、履修者数と修了者数を見ても明らかのように、本プログラムの科目を履修していても科目単独での履修が多く、本プログラム修了を目指すまでには至っていない学生が多い。原因のひとつとして、本プログラムの認知度の問題が考えられ、あらためて各科目担当教員から本プログラムの重要性とともに周知を徹底する。 ●企業からの評価 Wolfram Research, Inc.のほか、本学のDX推進にかかわる企業等とワーキングを実施し、本プログラムの評価について意見交換する機会を設ける。

大学等名	京都ノートルダム女子大学	レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	情報活用力プログラム（基礎）	初回認定年度	令和3年度

取組概要

情報活用力プログラムとは

情報社会において必要な情報科学の知識・技能を身につけるとともに、それらが社会に与える影響を理解した上で、新たな情報を作り出し、課題を発見し、その解決に向けて主体的に解決策を検討し、実践できる人材の養成を目的とした全学横断プログラムです。

★「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）」
（MDASH）認定プログラム

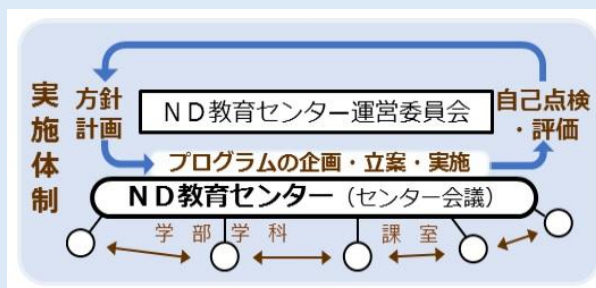
プログラム修了で身につく力

- ▶ 情報社会に必要な情報科学の基礎的知識・技能を身につけている。
- ▶ 情報が社会に与える影響を理解できる。
- ▶ 新たな情報を作り出し、課題を発見できる。
- ▶ 課題の解決に向けて主体的に解決策を検討することができる。

「情報活用力プログラム（基礎）」 — 「情報活用力プログラム」のうち「基礎基幹」科目で構成—

修了要件と科目一覧

4	●情報技術リテラシー		●AIとデータサイエンス入門			
3	▲情報演習Ⅱ		情報処理		プログラミング演習	
2	●情報の科学と倫理		▲情報演習Ⅰa		▲情報演習Ⅰb SNSコミュニケーションスキル	
1	英語英文学 基礎演習Ⅰ・Ⅱ	基礎演習Ⅰ・Ⅱ	生活環境 基礎演習Ⅰ・Ⅱ	心理学 基礎演習Ⅰ・Ⅱ	こども教育 基礎演習 こども教育 フィールド研修	社会情報 基礎演習Ⅰ・Ⅱ
	英語英文	国際日本文化	生活環境	心理	こども教育	社会情報 学環
	国際言語文化学部		現代人間学部		社会情報 学環	女性キャリア デザイン学環



実績



実績 令和3年度～令和6年度
履修者数：185名
修了者数：150名



令和6年度修了生は、システムエンジニア2名、ほかにも情報スキルを必要とする企業や学校教員への就職が多くみられる



学修支援
科目担当教員＋ND教育センター
対面とLMSを活用したフォロー体制

修了要件

必修3科目(●)6単位、選択必修3科目(▲)から1単位以上、選択必修科目(無印)から8単位以上の要件を満たし、全体合計で16単位以上となるよう修得すること。

学生の内容の理解度

本プログラム必修科目の授業アンケートより(2024年度 回答率 24.3%)

- ・この授業について主体的(熱心かつ意欲的)に取り組みましたか。99.2%
- ・この授業の内容を理解し、学びが深まりましたか。95.8%

学生の理解が
深まっている

京都ノートルダム女子大学履修プログラムに関する規程

(趣旨)

第1条 この規程は、京都ノートルダム女子大学(以下「本学」という。)が学部及び学際・学科の枠を超えたテーマに関する学修及び専門職業人養成に関する学修等の体系的な履修のために設けるプログラム(以下「プログラム」という。)に関して、必要な事項を定める。

(プログラム)

第2条 前条により設けるプログラムの名称及び目的は、以下のとおりとする。

(1) 情報活用能力プログラム

情報活用能力プログラムは、情報社会において必要な情報科学の知識・技能を身につけるとともに、それらが社会に与える影響を理解した上で、新たな情報を作り出し、課題を発見し、その解決に向けて主体的に解決策を検討し、実践できる人材の養成を目的とする。

(2) エアラインプログラム

エアラインプログラムは、社会人として必要な基礎的な知識・技能、ホスピタリティの在り方等を実践的に身に付け、航空業界はもちろんのこと、幅広くビジネスで率先力たろうとする人材の養成を目的とする。

- プログラムの単位の修得方法及び修得の要件は、別表に定めるとおりとする。
- プログラムを修了した者には、所定の修了証を授与する。
- 前2項の規定にかかわらず、情報活用能力プログラムに関する別表の科目区分「基礎・基幹」の要件を満たして16単位を修得した者(情報活用能力プログラムを修了した者を除く。)は、情報活用能力プログラム(基礎)を修了したものとし、申し出により所定の修了証を授与する。
- 日本語教員養成課程については、別に定める。

(自己点検・評価)

第3条 教育センターは、前2条に定める趣旨及び目的に基づいて実施する各プログラムの教育の質保証のため、本学学則第1条の2の規定に準じ、自己点検及び評価を実施し、その改善・充実を努めなければならない。

(主担当)

第4条 プログラムには、その専門性に応じ、当該分野に関連の深い学部長若しくは学際長又は教育センター長の推薦により、教育センター運営委員会において責任者を定めるものとする。

附 則 (平成29年2月15日制定)

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則 (平成30年1月24日改正)

- この改正は、平成30年4月1日から施行する。ただし、平成30年度以後の入学者に適用し、平成29年度以前の入学者(平成29年度以前の入学者に該当する学年に転入学又は編入学する者を含む。以下同じ。)については、なお従前の例による。
- 臨床の医学、日本語講読Ⅰ、日本語講読Ⅱ、日本語表現Ⅰ及び日本語表現Ⅱに係る改正については、前項の規定にかかわらず、平成29年度の入学者に該当する学年に転入学又は編入学する者を含む。)に適用する。
- 平成29年度以前の入学者に適用する授業科目については、第1項の規定にかかわらず、京都ノ

附 則 (令和5年2月15日改正)

この改正は、令和5年4月1日から施行する。ただし、令和5年度以後の入学者に適用し、令和4年度以前の入学者(当該の入学者に該当する学年に転入学又は編入学する者を含む。)については、なお従前の例による。

附 則 (令和5年10月18日改正)

この改正は、令和5年4月1日から適用する。

附 則 (令和6年1月24日改正)

- この改正は、令和6年4月1日から施行する。ただし、令和6年度以後の入学者に適用し、令和5年度以前の入学者(当該の入学者に該当する学年に転入学又は編入学する者を含む。)については、なお従前の例による。
- 前項の規定にかかわらず、別表1 情報活用能力プログラムの情報演習Ⅱに係る改正は、令和5年4月1日から適用する。ただし、令和5年度以後の入学者に適用し、令和4年度以前の入学者については、なお従前の例による。

附 則 (令和7年2月19日改正)

この改正は、令和7年4月1日から適用する。ただし、令和7年度以後の入学者に適用し、令和6年度以前の入学者(当該の入学者に該当する学年に転入学又は編入学する者を含む。)については、なお従前の例による。

ートルダム女子大学履修規程(平成29年12月20日改正) 附則第3項の規定に準じ、移行措置を講じるものとする。

- 平成29年度の入学者がホスピタリティ論又はIntercultural Communication and Adjustmentの単位を修得したときは、第1項の規定にかかわらず、別表①ホスピタリティプログラム、別表②医療サポート語学プログラム(英語)及び別表③日本語教員養成課程のプログラム修了の要件となる単位に含むことができる。
- 別表②医療サポート語学プログラム(英語)のプログラム修了の要件に係る改正については、第1項の規定にかかわらず、平成29年度の入学者に適用することができる。この場合において、平成29年度の入学者は、医療サポート語学プログラム病院研修を履修することを要しない。

附 則 (平成30年9月19日改正)

- この改正は、平成30年9月20日から施行する。ただし、平成30年度以後の入学者に適用し、平成29年度以前の入学者(当該の入学者に該当する学年に転入学又は編入学する者を含む。)については、なお従前の例による。
- 外国語(英語)、外国語(英語)指導法、小学校英語教育Ⅰ及び小学校英語教育Ⅱに係る改正については、前項の規定にかかわらず、平成31年4月1日から施行する。ただし、平成31年度以前の入学者に適用し、平成30年度以前の入学者(当該の入学者に該当する学年に転入学又は編入学する者を含む。)については、なお従前の例による。
- 平成29年度の入学者が総合計45単位以上を修得したときは、第1項の規定にかかわらず、この改正後の第2条第3項の規定により修了証を授与することができる。

附 則 (平成30年12月19日改正)

この改正は、平成31年4月1日から施行する。ただし、平成30年度以後の入学者に適用し、平成29年度以前の入学者(当該の入学者に該当する学年に転入学又は編入学する者を含む。)については、なお従前の例による。

附 則 (平成31年2月20日改正)

この改正は、平成31年4月1日から施行する。ただし、接遇のための日本語の単位数に係る改正については、改正の日から施行し、平成29年4月1日から適用する。

附 則 (令和2年10月21日改正)

- この改正は、令和3年4月1日から施行する。ただし、令和3年度以後の入学者に適用し、令和2年度以前の入学者(当該の入学者に該当する学年に転入学又は編入学する者を含む。)については、なお従前の例による。
- 前項の規定にかかわらず、令和2年度以前の入学者が本学情報処理実務資格課程所定の単位を修得して修了したときは、第2条第1項第4号に定める情報活用能力プログラム(基礎)を修了したものとみなす。

附 則 (令和3年3月17日改正)

この改正は、令和3年4月1日から施行する。

附 則 (令和4年3月16日改正)

この改正は、令和4年4月1日から施行する。ただし、令和4年度以後の入学者に適用し、令和3年度以前の入学者(当該の入学者に該当する学年に転入学又は編入学する者を含む。)については、なお従前の例による。

別表(科目名の横の○印は必修科目、△印は選択必修科目を示す。)

(1) 情報活用能力プログラム

区分	コース コード	授業科目名(○△は選択必修科目)	単位数	開設学科学科	備考
基 礎 正 規	GEI 1400	△情報演習Ⅰa	1	教育センター 社会情報学	△から1単位以上選択必修
	GEI 1401	△情報演習Ⅰb	1	教育センター 社会情報学	
	GEI 2400	△情報演習Ⅱ	1	教育センター 社会情報学	
	GEI 2500	○情報技術リテラシー	2	教育センター 社会情報学	
	INF 2525	○情報の科学と倫理	2	教育センター 社会情報学	
	GEI 2451	○AIとデータサイエンス入門	2	教育センター	8単位以上選択必修
	GEI 1450	SNSコミュニケーションスキル	2	教育センター	
	GEI 2450	情報処理	2	教育センター 社会情報学	
	GEI 2452	プログラミング演習	2	教育センター 社会情報学	
	INF 2451	英語英文学基礎演習Ⅰ	2	英語英文学科	
	EDF 1100	英語英文学基礎演習Ⅱ	2	英語英文学科	
	EDF 1150	英語英文学基礎演習Ⅲ	2	英語英文学科	
	CSB 1600	高等演習Ⅰ	2	国際日本文化学	
	CSB 1650	高等演習Ⅱ	2	国際日本文化学	
	SLS 3401	生物基礎基礎演習Ⅰ	2	社会情報学	
	SLS 1251	生物基礎基礎演習Ⅱ	2	社会情報学	
	FSB 1100	心理学基礎演習Ⅰ	2	心理学	
	FSB 1350	心理学基礎演習Ⅱ	2	心理学	
	EDB 1203	こども教育基礎演習	2	こども教育学	
	EDB 1500	こども教育フィールド研修	1	こども教育学	
INF 1401	社会情報基礎演習Ⅰ	2	社会情報学		
INF 1451	社会情報基礎演習Ⅱ	2	社会情報学		
WCD 1100	基礎演習Ⅰ	2	女性キャリアデザイン学 女性キャリアデザイン学		
WCD 1400	基礎演習Ⅱ	2	女性キャリアデザイン学 女性キャリアデザイン学		
合計			16単位以上		
専 門 科	BES 3500	英語英文学演習Ⅰ	2	英語英文学科	4単位以上選択必修
	BES 3550	英語英文学演習Ⅱ	2	英語英文学科	
	CSS 3600	専門演習Ⅰ	2	国際日本文化学	
	CSS 3650	専門演習Ⅱ	2	国際日本文化学	
	SLS 3401	生物基礎基礎演習Ⅰ	4	社会情報学	
	FSB 3000	心理学演習	2	心理学	
	BES 3600	こども教育演習	4	こども教育学	
	INF 3600	社会情報演習	4	社会情報学	
	WCD 3604	専門演習	4	女性キャリアデザイン学	
	CSA 2259	インターネット社会学	2	国際日本文化学	
	LBR 3203	ワークファンクション論	2	社会情報学 社会情報学	
	FSR 3203	情報教育	2	女性キャリアデザイン学 心理学	
	EDB 3402	情報教育	2	こども教育学 社会情報学	
	CNS 2601	子供のネット安全教育の理論と実践	2	こども教育学 社会情報学	
	EDF 3403	ICT活用教育	1	こども教育学 社会情報学	
	TEA 3853	教育センター		教育センター	
	GEI 2200	○アルゴリズム基礎	2	教育センター 社会情報学	
GEI 3400	○AIとデータサイエンス	2	教育センター 社会情報学		
INF 3401			社会情報学		
合計			8単位以上		

GEN 1150	生命科学	2	教育センター	10単位以上選択必修
GEN 1450	暮らしの応用科学	2	教育センター	
GCP 2350	アカデミック・ライティング	2	社会情報学履	
GCP 1501	キャリア実習Ⅰ	1	教育センター	
GCP 1502	キャリア実習Ⅱ	1	教育センター	
GCP 2500	キャリア形成ゼミ	2	教育センター	
GCP 3502	インターンシップⅠ	1	教育センター	
GCP 3503	インターンシップⅡ	1	教育センター	
GEN 1250	暮らしと観光・エネルギー	2	教育センター	
LBA 1251			生活環境学科	
EGL 2453	＊ことばのしくみ	2	社会情報学履	
EGL 3403	＊対人コミュニケーション	2	英語英文学科	
			英語英文学科	
			心理学	
			女性キャリアデザイン学履	
EGL 3406	＊ことばの音と形態	2	英語英文学科	
EGL 3455	＊ことばと社会	2	英語英文学科	
EGL 3458	＊ことばと意味	2	英語英文学科	
LBR 2201	＊ビジネスの基礎Ⅰ	2	生活環境学科	
			社会情報学履	
			女性キャリアデザイン学履	
FSR 2201			心履学科	
LBR 2252	＊ビジネスの基礎Ⅱ	2	生活環境学科	
			社会情報学履	
LBR 3253	＊ソーシャルマーケティング履	2	女性キャリアデザイン学履	
			生活環境学科	
			社会情報学履	
LBR 3254	＊女性経済論	2	女性キャリアデザイン学履	
			生活環境学科	
			社会情報学履	
			女性キャリアデザイン学履	
FSR 3254			心理学	
PSA 2203	＊消費者行動の心理学	2	心理学	
			社会情報学履	
			女性キャリアデザイン学履	
PSA 2205	＊知覚・認知心理学	2	心理学	
			社会情報学履	
PSA 2254	＊学習・意識心理学	2	心理学	
			社会情報学履	
EDW 2253			こども教育学科	
EDI 4601	初等教育実習Ⅰa	2	こども教育学科	
EDI 4602	初等教育実習Ⅰb	2	こども教育学科	
EDP 3600	初等教育実習Ⅱa	2	こども教育学科	
EDP 3601	初等教育実習Ⅱb	2	こども教育学科	
INF 2250	＊ICTビジネス論	2	社会情報学履	
			女性キャリアデザイン学履	
TEA 4856	中等教育実習Ⅰ	2	教育センター	
TEA 4857	中等教育実習Ⅱ	2	教育センター	
ESG 4600	卒業研究	8	英語英文学科	
CSS 4600			国際日本文化学科	
GLS 4600			生活環境学科	
PSS 4602			心理学	
EPS 4601			こども教育学科	
INF 4600			社会情報学履	
WCD 4600			女性キャリアデザイン学履	
	各学科専門教育科目のうち情報分野を含むもの	4単位以内		
	合計	10単位以上		
	総合計	34単位以上		

【プログラム終了の要件】

1 上表のとおり単位を修得すること。

2 卒業研究及び各学科専門教育科目のうち情報分野を含むものとして算入できる単位は、教育センターが別に定めるところにより、当該科目の学修内容に情報分野を含むものとして履修を受けたものに限る。

(以下略)